

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の I F 記載要領(1998 年 9 月)に準拠して作成

尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤

指定医薬品

ネルオス[®]錠 2

ネルオス[®]錠 3

N E L U O S

塩酸オキシブチニン錠

剤 形	素錠
規 格 ・ 含 量	ネルオス錠 2 1 錠中：塩酸オキシブチニン…………… 2 mg ネルオス錠 3 1 錠中：塩酸オキシブチニン…………… 3 mg
一 般 名	和名：塩酸オキシブチニン 洋名：Oxybutynin hydrochloride
製造・輸入承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造承認年月日：1996年1月8日 薬価基準収載年月日：1996年7月5日 発売年月日：1996年7月5日
開発・製造・輸入・発 売・提携・販売会社名	製造発売元：大洋薬品工業株式会社
担当者の連絡先・ 電話番号・F A X 番号	

本 I F は 2002 年 4 月 改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

IF利用の手引きの概要

—日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者(以下、MRと略す)等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和63年日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)として位置付けを明確化し、その記載様式を策定した。そして、平成10年日病薬学術第3小委員会によって新たな位置付けとIF記載要領が策定された。

2. IFとは

IFは「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。

3. IFの様式・作成・発行

規格はA4判、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IFは日病薬が策定した「IF記載要領」に従って記載するが、本IF記載要領は、平成11年1月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価(臨床試験実施による)がなされた時点ならびに適応症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合にはIFが改訂・発行される。

4. IFの利用にあたって

IF策定の原点を踏まえ、MRへのインタビュー、自己調査のデータを加えてIFの内容を充実させ、IFの利用性を高めておく必要がある。

MRへのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床成績等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update(医薬品安全対策情報)等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段にIF作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

目 次

1 . 概要に関する項目

- 1 - 1 . 開発の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1 - 2 . 製品の特徴及び有用性・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 . 名称に関する項目

- 2 - 1 . 販売名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 - 2 . 一般名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 - 3 . 構造式又は示性式・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 - 4 . 分子式及び分子量・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 - 5 . 化学名（命名法）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 - 6 . 慣用名、別名、略号、記号番号・・・・・・・・ 2
- 2 - 7 . C A S 登録番号・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3 . 有効成分に関する項目

- 3 - 1 . 有効成分の規制区分・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 - 2 . 物理化学的性質・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 - 3 . 有効成分の各種条件下における安定性・・・・・・・・ 3
- 3 - 4 . 有効成分の確認試験法・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 - 5 . 有効成分の定量法・・・・・・・・・・・・ 3

4 . 製剤に関する項目

- 4 - 1 . 剤形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 2 . 製剤の組成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 3 . 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意・・・・・・・・ 4
- 4 - 4 . 製剤の各種条件下における安定性・・・・・・・・ 4
- 4 - 5 . 調製法及び溶解後の安定性・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 6 . 他剤との配合変化（物理化学的変化）・・・・・・・・ 4
- 4 - 7 . 混入する可能性のある夾雑物・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 8 . 溶出試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 9 . 生物学的試験法・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 - 10 . 製剤中の有効成分の確認試験法・・・・・・・・ 5
- 4 - 11 . 製剤中の有効成分の定量法・・・・・・・・ 5
- 4 - 12 . 力価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 - 13 . 容器の材質・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 - 14 . その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

5 . 治療に関する項目

- 5 - 1 . 効能又は効果・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5 - 2 . 用法及び用量・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5 - 3 . 臨床成績・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

6 . 薬効薬理に関する項

- 6 - 1 .薬理的に関連ある化合物又は化合物群..... 7
- 6 - 2 .薬理作用..... 7

7 . 薬物動態に関する項目

- 7 - 1 .血中濃度の推移・測定法..... 8
- 7 - 2 .薬物速度論的パラメータ..... 8
- 7 - 3 .吸収..... 8
- 7 - 4 .分布..... 8
- 7 - 5 .代謝..... 8
- 7 - 6 .排泄..... 9
- 7 - 7 .透析等による除去率..... 9

8 . 安全性(使用上の注意等)に関する項目

- 8 - 1 .警告内容とその理由..... 10
- 8 - 2 .禁忌内容とその理由..... 10
- 8 - 3 .効能・効果に関連する使用上の注意とその理由..... 10
- 8 - 4 .用法・用量に関連する使用上の注意とその理由..... 10
- 8 - 5 .慎重投与内容とその理由..... 10
- 8 - 6 .重要な基本的注意とその理由及び処置方法..... 10
- 8 - 7 .相互作用..... 11
- 8 - 8 .副作用..... 11
- 8 - 9 .高齢者への投与..... 11
- 8 -10 .妊婦、産婦、授乳婦等への投与..... 11
- 8 -11 .小児等への投与..... 11
- 8 -12 .臨床検査結果に及ぼす影響..... 11
- 8 -13 .過量投与..... 12
- 8 -14 .適用上及び薬剤交付時の注意
(患者等に留意すべき必須事項等)..... 12
- 8 -15 .その他の注意..... 12
- 8 -16 .その他..... 12

9 . 非臨床試験に関する項目

- 9 - 1 .一般薬理..... 13
- 9 - 2 .毒性..... 13

10 . 取扱い上の注意等に関する項目

- 10 - 1 .有効期間又は使用期限..... 14
- 10 - 2 .貯法・保存条件..... 14
- 10 - 3 .薬剤取扱い上の注意点..... 14
- 10 - 4 .承認条件..... 14
- 10 - 5 .包装..... 14
- 10 - 6 .同一成分・同効薬..... 14
- 10 - 7 .国際誕生年月日..... 14
- 10 - 8 .製造・輸入承認年月日及び承認番号..... 14

10-9 .薬価基準収載年月日	14
10-10.効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	14
10-11.再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	14
10-12.再審査期間	14
10-13.長期投与の可否	15
10-14.厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	15
10-15.保険給付上の注意	15
11 . 文献	
11- 1 .引用文献	16
11- 2 .その他の参考文献	16
12 . 参考資料	
主な外国での発売状況	17
13 . 備考	
その他の関連資料	18

1 . 概要に関する項目

1 - 1 . 開発の経緯

特になし

1 - 2 . 製品の特徴及び有用性

ネルオス錠は、抗コリン作用による排尿筋収縮抑制と平滑筋直接弛緩作用により膀胱の過緊張状態を緩解し、神経因性膀胱並びに不安定膀胱に基づく頻尿、尿意切迫感及び尿失禁症状を改善する。

2 . 名称に関する項目

2 - 1 . 販売名

和名：ネルオス錠 2

ネルオス錠 3

洋名：N E L U O S

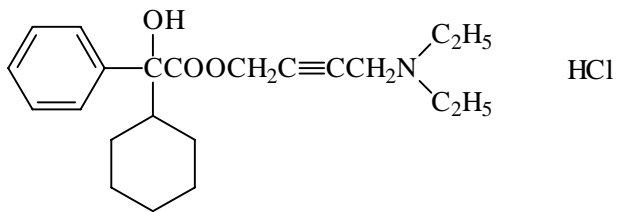
名称の由来：特になし

2 - 2 . 一般名

和名（命名法）：塩酸オキシブチニン

洋名（命名法）：Oxybutynin hydrochloride

2 - 3 . 構造式又は示性式



2 - 4 . 分子式及び分子量

分子式：C₂₂H₃₁N O₃ · HCl

分子量：393.95

2 - 5 . 化学名（命名法）

4-Diethylamino-2-butynyl(±)- -cyclohexyl- -phenylglycollate hydrochloride

2 - 6 . 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

2 - 7 . C A S 登録番号

1508-65-2

3 . 有効成分に関する項目

3 - 1 . 有効成分の規制区分

劇薬、指定医薬品

3 - 2 . 物理化学的性質

外観・性状

白色の結晶性の粉末である。

溶解性

溶 媒	溶解性 (1 g を溶かすに要する溶媒量)
メタノール	1mL未満
水	1mL以上10mL未満
エタノール	1mL以上10mL未満
氷酢酸	1mL以上10mL未満
無水酢酸	10mL以上30mL未満
エーテル	10000mL以上

吸湿性

該当資料なし

融点(分解点)、沸点、凝固点

融点：124 ~ 129

酸塩基解離定数

該当資料なし

分配係数

該当資料なし

その他の主な示性値

旋光度：本品の水溶液(1 50)は旋光性を示さない。

pH：本品の水溶液(1 20)のpHは3.5 ~ 4.5である。

3 - 3 . 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3 - 4 . 有効成分の確認試験法

(1) 第3級アミンの沈殿反応

(2) 塩化物の定性反応

(3) 赤外吸収スペクトル測定法

3 - 5 . 有効成分の定量法

電位差滴定法

4 . 製剤に関する項目

4 - 1 . 剤形

剤形の区別及び性状

剤形の区別：素錠

販売名	性状	外形		
		直径	厚さ	重量
ネルオス錠 2	苦味を有する白色の片面	8.0mm	3.6mm	190mg
ネルオス錠 3	1/2割線入り素錠	8.0mm	3.6mm	190mg

製剤の物性

該当資料なし

識別コード

販売名	P T P 識別コード	薬剤本体識別コード
ネルオス錠 2	Ⓣ N L S - 2	O X 2
ネルオス錠 3	Ⓣ N L S - 3	O X 3

4 - 2 . 製剤の組成

有効成分(活性成分)の含量

ネルオス錠 2

1錠中 塩酸オキシブチニン 2 mgを含有

ネルオス錠 3

1錠中 塩酸オキシブチニン 3 mgを含有

添加物

結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、部分アルファー化デンプン

4 - 3 . 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4 - 4 . 製剤の各種条件下における安定性

ネルオス錠 2

ネルオス錠 2 の P T P 包装品及びガラス製容器包装品につき、加速試験(40 ・ 75%RH)を行った結果、試験開始時と比較して6箇月後まで変化を認めなかった。

ネルオス錠 3

ネルオス錠 3 の P T P 包装品及びガラス製容器包装品につき、加速試験(40 ・ 75%RH)を行った結果、試験開始時と比較して6箇月後まで変化を認めなかった。

4 - 5 . 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

4 - 6 . 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

4 - 7 . 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

4 - 8 . 溶出試験

該当資料なし

4 - 9 .生物学的試験法

該当しない

4 -10.製剤中の有効成分の確認試験法

- (1)第3級アミンの沈殿反応
- (2)紫外可視吸光度測定法
- (3)薄層クロマトグラフ法

4 -11.製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフ法

4 -12.力価

該当しない

4 -13.容器の材質

P T P : ポリ塩化ビニル、アルミ箔

4 -14.その他

特になし

5 . 治療に関する項目

5 - 1 . 効能又は効果

下記疾患又は状態における頻尿、尿意切迫感、尿失禁
神経因性膀胱
不安定膀胱(無抑制収縮を伴う過緊張性膀胱状態)

5 - 2 . 用法及び用量

通常成人 1 回 1 錠(塩酸オキシブチニンとして 2 又は 3 mg)を 1 日 3 回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

5 - 3 . 臨床成績

臨床効果

該当資料なし

臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

検証的試験

1)無作為化平行用量反応試験：該当資料なし

2)比較試験：該当資料なし

3)安全性試験：該当資料なし

4)患者・病態別試験：該当資料なし

治療的使用

1)使用成績調査・特別調査・市販後臨床試験：該当資料なし

2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要：該当しない

6 . 薬効薬理に関する項目

6 - 1 . 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

塩酸プロピペリン、塩酸フラボキサート 等

6 - 2 . 薬理作用

作用部位・作用機序¹⁾

塩酸オキシブチニンは、抗コリン作用による膀胱平滑筋(排尿筋)収縮抑制と弱いカルシウム拮抗作用による平滑筋直接弛緩を示し、膀胱の過緊張状態を緩解させる。

薬効を裏付ける試験成績

特になし

7 . 薬物動態に関する項目

7 - 1 . 血中濃度の推移・測定法

治療上有効な血中濃度

該当資料なし

最高血中濃度到達時間²⁾

ネルオス錠 2 を 4 錠 (塩酸オキシブチニンとして 8 mg) 健康成人に経口投与したとき、投与後約 0.5 時間で最高血中濃度 (約 7.9 ng/mL) に達し、生物学的半減期は約 1.5 時間であった。(1 回投与量 : 承認外用量)

ネルオス錠 3 を 3 錠 (塩酸オキシブチニンとして 9 mg) 健康成人に経口投与したとき、投与後約 0.5 時間で最高血中濃度 (約 9.3 ng/mL) に達し、生物学的半減期は約 1.3 時間であった。(1 回投与量 : 承認外用量)

通常用量での血中濃度

該当資料なし

中毒症状を発現する血中濃度

該当資料なし

7 - 2 . 薬物速度論的パラメータ

吸収速度定数

該当資料なし

バイオアベイラビリティ

該当資料なし

消失速度定数

該当資料なし

クリアランス

該当資料なし

分布容積

該当資料なし

血漿蛋白結合率

該当資料なし

7 - 3 . 吸収

該当資料なし

7 - 4 . 分布

血液 - 脳関門通過性

該当資料なし

胎児への移行性

該当資料なし

乳汁中への移行性

該当資料なし

髄液への移行性

該当資料なし

その他の組織への移行性

該当資料なし

7 - 5 .代謝

代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

代謝に關与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

7 - 6 .排泄

排泄部位

該当資料なし

排泄率

該当資料なし

排泄速度

該当資料なし

7 - 7 .透析等による除去率

腹膜透析

該当資料なし

血液透析

該当資料なし

直接血液灌流

該当資料なし

8 . 安全性(使用上の注意等)に関する項目

8 - 1 . 警告内容とその理由

特になし

8 - 2 . 禁忌内容とその理由

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1)明らかな下部尿路閉塞症状である排尿困難・尿閉等を有する患者 [排尿困難・尿閉等が更に悪化するおそれがある]
- (2)緑内障の患者 [眼圧の上昇を招き、症状を悪化させるおそれがある]
- (3)重篤な心疾患のある患者 [抗コリン作用により頻脈、心悸亢進を起こし心臓の仕事量が増加するおそれがある]
- (4)麻痺性イレウスのある患者 [抗コリン作用により胃腸管の緊張、運動性は抑制され、胃腸管内容物の移動は遅延するため、麻痺性イレウスの患者では、胃腸管内容物の停滞により閉塞状態が強められるおそれがある]
- (5)衰弱患者又は高齢者の腸アトニー、重症筋無力症の患者 [抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある]
- (6)授乳婦（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）

8 - 3 . 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

8 - 4 . 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

8 - 5 . 慎重投与内容とその理由

- (1)排尿困難のおそれのある前立腺肥大患者 [前立腺肥大患者では、排尿障害を来しない場合でも、抗コリン剤の投与により排尿障害を起こすおそれがある]
- (2)甲状腺機能亢進症の患者 [心拍数の増加等の症状の悪化を招くおそれがある]
- (3)うっ血性心不全の患者 [代償性交感神経系の亢進を更に亢進させるおそれがある]
- (4)不整脈のある患者 [頻脈性の不整脈を有している患者では、副交感神経遮断作用により交感神経が優位にたち、心拍数の増加等が起こるおそれがある]
- (5)潰瘍性大腸炎の患者 [中毒性巨大結腸があらわれるおそれがある]
- (6)高温環境にある患者 [抗コリン作用により発汗抑制が起こり、外部の温度上昇に対する不耐性が生じて、急激に体温が上昇するおそれがある]
- (7)重篤な肝又は腎疾患のある患者
- (8)パーキンソン症候群又は痴呆症状を伴う高齢者 [抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある]

8 - 6 . 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

視調節障害、眠気を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。

8 - 7 . 相互作用

併用禁忌とその理由

特になし

併用注意とその理由

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン剤、三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、モノアミン酸化酵素阻害剤	口渇、便秘、排尿困難、目のかすみ等の副作用が増強されるおそれがある。	抗コリン作用が増強されるおそれがある。

8 - 8 . 副作用

副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

1) 重大な副作用(頻度不明)と初期症状

- (1)血小板減少 血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
(2)麻痺性イレウス 麻痺性イレウスがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、著しい便秘、腹部膨満等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

	頻度不明
精神・神経系	めまい、眠気、頭痛、しびれ、振戦等
消化器系	口渇、下痢、胃腸障害、胃部不快感、嘔気、食欲不振、胸やけ、便秘、腹部膨満感、口内炎、嘔吐、舌炎等
過敏症	発疹等
泌尿器系	排尿困難、尿閉、残尿等
肝臓	A S T (G O T)、A L T (G P T)の上昇
その他	浮腫、倦怠感、口が苦い、発熱、熱感、目のかすみ、眼瞼結膜充血、汗が出なくなる、咽頭部痛、胸痛、手の乾燥感、嘔声等

項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

薬物アレルギーに対する注意及び試験法

8 - 8 2)「過敏症」の項参照

8 - 9 . 高齢者への投与

高齢者に投与する場合には少量から投与し、観察を十分行うとともに、過量投与にならぬよう注意すること。

8 -10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。
動物実験で乳汁への移行が報告されているので授乳中の婦人には投与しないこと。

8 -11. 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。

8 -12. 臨床検査結果に及ぼす影響

特になし

8 -13. 過量投与

特になし

8 -14. 適用上及び薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)

薬剤交付時：P T P包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること。(P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

8 -15. その他の注意

特になし

8 -16. その他

特になし

9 . 非臨床試験に関する項目

9 - 1 . 一般薬理

該当資料なし

9 - 2 . 毒性

単回投与毒性試験

該当資料なし

反復投与毒性試験

該当資料なし

生殖発生毒性試験

該当資料なし

その他の特殊毒性

該当資料なし

10. 取扱い上の注意等に関する項目

10-1. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年

10-2. 貯法・保存条件

貯法：しゃ光・室温保存

10-3. 薬剤取扱い上の注意点

規制区分：指定医薬品

10-4. 承認条件

特になし

10-5. 包装

ネルオス錠2

100錠 1,200錠 (PTP包装)

ネルオス錠3

100錠 1,200錠 (PTP包装)

10-6. 同一成分・同効薬

同一成分薬：ポラキス錠 (アベンティス)

同効薬：塩酸プロピペリン製剤、塩酸フラボキサート製剤 等

10-7. 国際誕生年月日

該当しない

10-8. 製造・輸入承認年月日及び承認番号

ネルオス錠2

製造承認年月日：1996年1月8日

承認番号：(08AM)第0006号

ネルオス錠3

製造承認年月日：1996年1月8日

承認番号：(08AM)第0007号

10-9. 薬価基準収載年月日

1996年7月5日

10-10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10-11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

10-12. 再審査期間

該当しない

10-13. 長期投与の可否

可能

[本剤は厚生労働省令第23号(平成14年3月8日付)および厚生労働省告示第99号(平成14年3月18日付)による薬剤投与期間の制限を受けない。]

10-14. 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード

ネルオス錠2 : 2 5 9 0 0 0 5 F 1 0 1 4

ネルオス錠3 : 2 5 9 0 0 0 5 F 2 0 1 0

10-15. 保険給付上の注意

特になし

11 . 文献

11- 1 . 引用文献

- 1)河邊^等 : 医学と薬学, 24(6), 1463, 1990
- 2)大洋薬品工業(株)社内報, 4, 1994

11- 2 . その他の参考文献

特になし

12. 参考資料

主な外国での発売状況
該当しない

13. 備考

その他の関連資料
特になし

< 文献請求先 >
大洋薬品工業株式会社 学術情報部
〒460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目16-29